


施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した【警告】は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した【注意】は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 この絵表示は、してはいいない「禁止」の内容です

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です



警告

湯水を逆に配管しないでください。

禁止

水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

給湯に蒸気を使用しないでください。

禁止

器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合も湯側圧力を水側より低くしてください。

給湯圧力を給水圧力より高くすると、正常な温度調節ができなくなり、やけどをするおそれがあります。

給湯温度は85℃より高温で使わないでください。

禁止

85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

寒冷地仕様の場合
水抜きつまみは水抜き以外の目的で開けないでください。

禁止

水抜きつまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

加工及び接合等の改造はしないでください。


禁止

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。

禁止

通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。

禁止

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は新しい部品に交換してください。

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。

禁止

点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

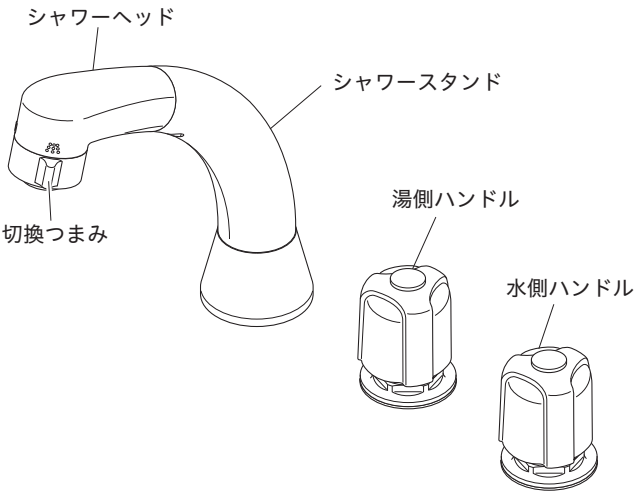
- ① 使用水圧 (A=〔給湯器の最低作動水圧〕+〔配管圧力損失〕)
(1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開)
〔比例制御式〕最低必要水圧:A+50.0KPa (動水圧)、最高水圧:0.75MPa (静水圧)
(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ
〔給湯・給水圧力〕最低必要水圧:A+50.0KPa (動水圧)、最高水圧:0.75MPa (静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ④ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑤ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑥ 本製品は改造 (加工及び接合等) によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑦ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑧ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

【⚠ 注意】修理技術者以外の人には水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

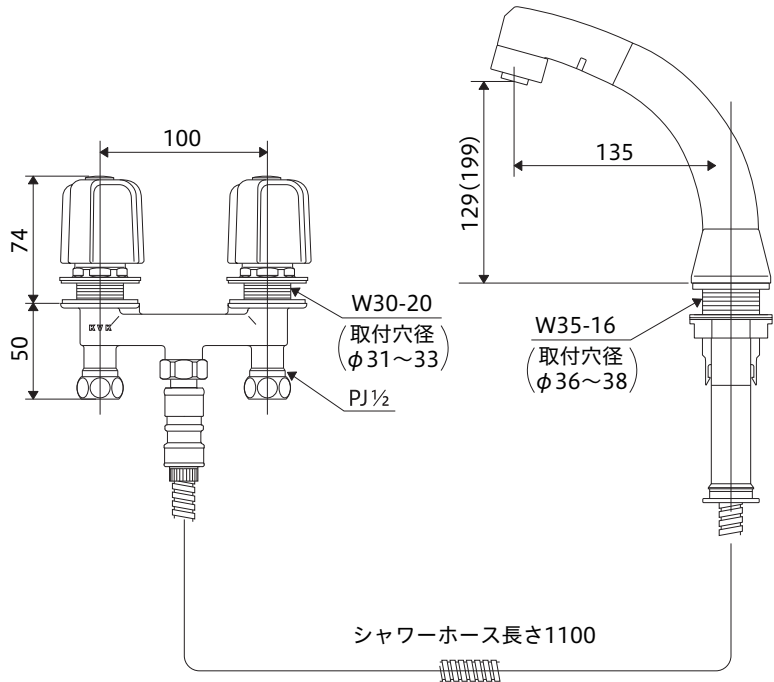
取り付け完成図と各部の名称／寸法図／分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

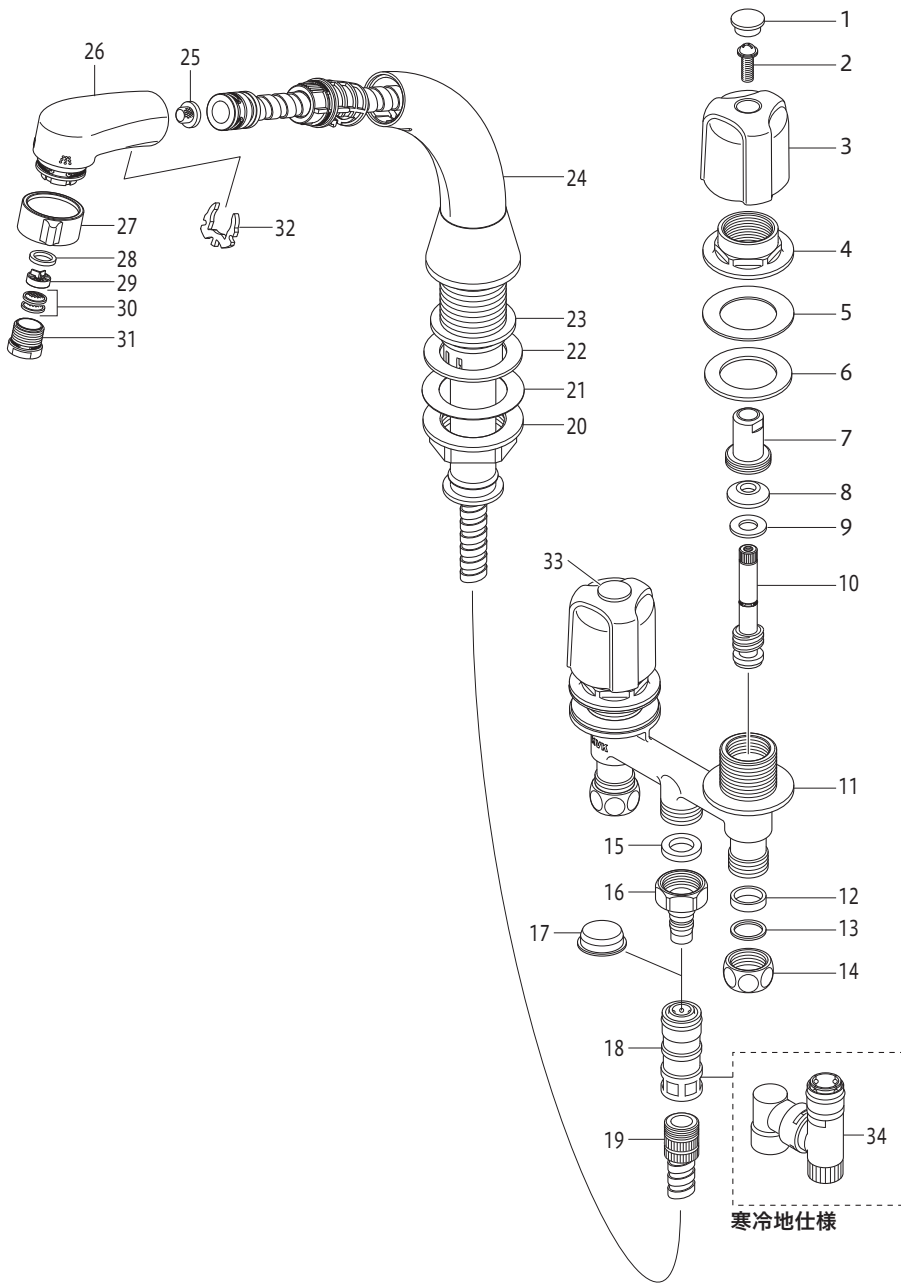
取り付け完成図と各部の名称



寸法図



分解図



1	水側キャップ
2	ねじ
3	ハンドル
4	フランジ
5	輪パッキン (透明)
6	輪パッキン (黒)
7	グラン
8	三角パッキン
9	座金
10	固定こま
11	本体
12	パッキン
13	スリップ板
14	ナット
15	輪パッキン
16	プラグ
17	キャップ
18	カプラー
19	シャワーホース
20	フランジ
21	スリップ板
22	輪パッキン
23	シートパッキン
24	シャワースタンド
25	ストレーナ
26	シャワーヘッド
27	シャワーフェイス
28	パッキン
29	整流器
30	ストレーナ
31	吐水口先ジョイント
32	クリップ
33	湯側キャップ
34	水抜き付きカプラー

取り付け手順

1

給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2

止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。
水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認の上取り付けください。
止水栓はストレーナ付が最適です。
寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付
止水栓

水抜き栓付
止水栓

止水栓(別売)

止水栓(別売)

3

部品の取りはずし

本体から図の各部品をはずします。
※ 輪パッキン(黒)ははずしません。

キャップ
ねじ
ハンドル
フランジ
輪パッキン(透明)

はずす

※輪パッキン(黒)

はずす

本体

4

本体の取り付け

① 本体を洗面台内側より、K V Kマークが正面を向くように挿入します。
② 洗面台表面よりフランジにて固定します。
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。

② 固定

フランジ

輪パッキン(透明)

① 挿入

KVKマーク
正面に

本体

5

ハンドルの取り付け

ハンドルをビスで締め、キャップをはめます。
キャップは左側が湯側(赤)、右側が水側(青)になるように取り付けてください。

湯側キャップ

ねじ

ハンドル

水側キャップ

取り付け

6

シャワースタンドの取り付け

シャワースタンドをフランジで固定します。
【△ 注意】
フランジの締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、シャワースタンドが緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具
G11(別売)

取り付け穴
φ36~38

輪パッキン(黒)

スリップ板

フランジ

シャワースタンド

シートパッキン(白)

7

シャワーホースの接続

① (一般地仕様の場合)カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。
緩んでいる場合はカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は約100N・cm)
(寒冷地仕様の場合)水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。
水抜き付きカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は約100N・cm)
【△ 注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
※シャワーホースはねじらない

シャワーホース

カプラー

プライヤー等で固定

ここに工具をかける
セレーション部

シャワーホース

しめる

シャワーホース

プライヤー等で固定

水抜き付き
カプラー

一般地仕様

寒冷地仕様

② カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてからプラグへカチツと音がするまではめ込みます。(寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。)
取り付け後、カプラー(寒冷地仕様は水抜き付カプラー)を引っばってはズれてないことを確認します。

下りていない状態

スライダー
下ろす

カプラー

下りている状態

スライダー

カプラー

キャップははずす

カプラー

エルボは下向きに

カチツ

プラグ

押し込む

【△ 注意】
カプラー取り付け後、確実に接続されてされているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・スライダーが上がって
・カプラーを真下に引っ張ってはズれないこと

一般地仕様

寒冷地仕様

スライダー

カプラー

カプラー

カプラー

【△ 注意】
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯パイプの外側にぶらさげてください。
シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーホース

止水栓(別売)

シャワーホース

止水栓(別売)

8

止水栓との接続

銅パイプ接続の場合

① 銅パイプ(別売)の必要な長さを測り、切断してください。このとき、ストレート部60mm程度・パイプの差し込み代は20mm確保してください。
【お願い】銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。
【△ 注意】銅パイプ切断および曲げ時に銅パイプストレート部には変形や傷などはないようにしてください。
変形や傷などにより、漏水の原因となります。

本体

銅パイプ(別売)

止水栓(別売)

測る

ストレート部
60mm程度確保
※できるだけ
長く確保して
ください

差し込み代
20mm確保

銅パイプ

② 銅パイプにナット、スリップ板、パッキンの順にはめ込んでから、銅パイプを本体にはめ込みます。
③ 銅パイプと止水栓を接続してから、銅パイプと本体を接続します。
【△ 注意】・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。
締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。
締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
・薄肉の接続管(ニップル等)には、銅パイプを接続しないでください。
パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。
固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

②-1
部品をはめ込む

②-2
銅パイプをはめ込む

パッキン(別売)

止水栓(別売)

銅パイプ(別売)

ナット

スリップ板

パッキン

③-1 接続

③-2 接続

スパナ等

フレキ管接続の場合

フレキ管(別売)のナット部を本体と止水栓(別売)に接続します。
【△ 注意】・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。
締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。
締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△ 注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ・整流器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・整流器にゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

湯、水ハンドルが全開吐水で適温、適量になるように、止水弁で調節します。

全開で適温、適量

湯側ハンドル

水側ハンドル

湯側止水弁

止水栓(別売)

水側止水弁

あける

しめる

あける

しめる

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

【△ 注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。